



東俣野 12月

東俣野小学校 学校だより

令和3年11月30日

校庭の小啄木鳥

副校長 大山 高幸

美しく色づいていた木々の葉も徐々に色あせ、冬の気配が漂い始めてきました。いよいよ師走、早いもので今年もあとひと月で終わります。

先日、保健室前の木をせわしなく動き回る可愛らしい小鳥を見かけました。よく見ると、キツツキの仲間コゲラです。こんな身近なところにキツツキが、と思いきや公園などで比較的見ることができる小鳥なのだそうです。そんなこととは知らず、数年前、子どもを引率して訪れた三ッ沢公園でこの鳥を初めて見た時は驚いたものです。キツツキは森の中にすむ鳥で、滅多に見ることなんてできないと思っていた私の目の前で、木の幹にくちばしをコンコンとリズムよく打ち付け、幹に潜む虫を探す様子は、姿かたちは小ぶりながら立派なキツツキでした。体の大きさはスズメくらい、コゲラを漢字で表すと「小啄木鳥」、字のごとく小さなキツツキです。

キツツキの仲間は木に垂直にしがみつくといい、ほかの鳥に真似のできないことをやってのけます。秘密はその体の特徴。多くの鳥は足の指が前に三本、後ろに一本あるのですが、キツツキの仲間は前に二本、後ろにも二本あり、この後ろの二本の指で木の表面をがっしりとつかんで垂直体勢をキープします。虫を捕る舌にも秘密があります。餌となる虫は木の奥に潜んでいるため、舌の長さはくちばしの二、三倍もあり、頭蓋骨をぐるりと回るようにしまわれています。舌の先はブラシ状になっていて木の奥の虫をひっかけて逃しません。この季節、他の生き物の姿が見られなくなる中、鳥の姿が目立つように思います。それまで鳥の姿を隠していた木の葉が落ちたことで、鳴き声しか聞こえなかったその姿を目にする機会が増えたからかもしれません。これからが冬本番、長期予報では関東地方の今年の冬は例年よりも寒いのだそうです。人間も生き物たちも、もうひと頑張りですね。

9月から延期になっていた12月9日・10日の5年生清水宿泊体験学習で、今年度、東俣野小学校の宿泊行事が終わります。コロナ禍の中、遠足や社会科見学など全ての学年の行事を無事終えることができ、保護者の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。

街角にともるイルミネーションは、昨年と比べ華やかさが少し戻ってきたような気がします。油断は禁物ですが、明るい兆しが見えてきました。

2022年はどんな一年になるのでしょうか。希望と期待を胸に抱きながら、地域や保護者の皆様のご理解ご協力のもと、職員一同、子どもたちと力を合わせて頑張っていきたいです。

1年間本当にありがとうございました。